

ピアが織りなすチカラとともに 働き合っジョブサポート

ひきこもり当事者が就労にたどり着くためにはさまざまなハードルがあると言われています。フォーラムでは一般論でいう就労支援とは一線を画した当事者目線からの今日的な就労を再考し、ひきこもり経験という貴重なピアが織りなすチカラとともに新たな働き方をつくりだすジョブサポートのありようについて全国から代表当事者を招聘して検討を深めます。

講師の紹介

横山 泰三 氏

(NPO法人わかもの国際支援協会 顧問)

もっとひきこもりたい思いから、オンラインゲームで知り合ったひきこもり仲間とテレワークを活用してひきこもった自室から就業して収入が得られる仕組みを構築。総務省テレワーク先駆者百選に選出。

坂本 凌雲 氏

(ひきこもりプレス多摩 代表)

ひきこもりだった自分が嫌いで、必死に社会に食らいつく。30歳過ぎてから介護職に従事し、家庭を築くも、相当無理して社会に合わせている思いから、手記「自立への漂流」を自費出版し、ひきこもりピアサポーター活動を2年前より展開する。

杉原 文昭 氏

(生きづらわーほり 理事)

山梨県出身。20代 30代で2度のひきこもりを経験する。現在は、施設職員として働く。ひきこもりから就労していく過程が一番大変だったという思いから当事者の就労サポートを提供する。

植西 あすみ 氏

(自助会NAGI)

ひきこもりにかかりきって、幸せにひきこもることを浦河のべてる流当事者研究を通して体感、ムーミン生活を推奨する。自分が心からやりたいことを生業にしたいく百姓見習い(=百の得意なことができる人)中。

間風坊(もんふうぼう) 氏

(当事者活動人)

ペンネームは、今ここの風を聞く者の意。帰郷のため30歳を機に退職したところ実家で3年ほどひきこもる。自助グループ・ボランティア体験などを通して社会に再参画し20年後の現在、心理職を生業としている。

蔵谷 俊夫 氏

(SANGOの会)

子どもの頃より人見知りする性格があり大学卒業後、就職活動に展望が見いだせないまま、ひきこもり支援施設に入所する。紆余曲折の結果、広汎性発達障害の診断を受け2016年2月から一般企業に就く。「道産こもり179大学」の命名者として活動を続ける。

司会進行 NPO法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク 田中 敦

と き

平成 29年 10月 29日 日 13:00~17:00

と ころ

北翔大学北方圏学術情報センターPORTO 5階 会議室A

住 所 ▶ 〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1番1号

交通機関 ▶ 地下鉄東西線・円山公園駅下車5番出口から徒歩5分

参加対象 ひきこもり当事者経験者とその家族、支援者など 参加費 お一人につき500円(資料代)

定員 50名(一般公開として参加希望多数の場合は先着順になります)

申込み方法 裏面の参加申込書に必要事項を記入の上、Eメールまたは、FAXでお送り下さい。10月26日(木)締切

● 駐車場はありません。ご来場には公共交通機関をご利用ください ●

主 催 特定非営利活動法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク

問い合わせ先 事務局 〒064-0824 札幌市中央区北4条西26丁目3番2号
TEL 090-3890-7048[担当:田中] e-mail info@letter-post.com URL http://letter-post.com/

